
みあげてごらん

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みあげてごらん

【Nコード】

N1026K

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

眠れなくて、星にみとれる。

胸に蝶が迷い込んだような夜だった。どうにも眠れなくて、僕は仕方なく寝室から出た。トイレに行っても何も出ず、ただ居てもたつてもいられない居心地の悪さに酔わされながら廊下を歩く。

ふと、窓の外に、星を認めた。漆黒の闇に、転々と光り輝く。大きく赤く輝く星がひとつ、散らばる大小の星が無数。吸い込まれるように魅せられて、僕はその場に腰をかけ、しばらくぼうつとしていた。

「君も眠れないの？」

見やると、隣のクラスのやつだった。あまり記憶にないし、もちろん名前も知らない。だけど不思議と、声をかけられても不快じゃなかった。それどころか、古い親友が来たような親しみさえ感じる。彼は、ごく自然に僕の横に腰かけると、同じように星たちを見つめた。

「星、近いね」

「うん」

彼の言葉に頷く。星が確かに近い。まるでこちらに落ちてくるみたいだ。故郷では星なんか、霧のなかに漂う砂のように霞んでいたのに。

僕たちは故郷からこんなにも離れてしまったのだ。

「疎開先は、良いところだった」

彼は笑う。僕は苦笑する。

「疎開先が悪いところなら、誰もいきたがらないだろ。大人の嘘だ」
「……そうだね。すごく優しい嘘だ」

柔らかい声色。自分の与えられた選択に納得をしているのか、諦めているのか、すべてを受け入れたかのような横顔に、僕はどうしようもなく胸が痛くなった。

いつの間にもやら蝶は、その数を増やし、その羽を刃に変えたらし

い。

気づけば僕は、号泣していた。こんなに美しい夜を、星を、僕は自分の人生に許したくないはずなのに。

でも僕らは子供で、未来で、生きなくてはならない。生き残らなくてはならない。だから、行かなくてはならない。

「ああ、地球って本当に綺麗だ」

星屑に囲まれ、赤い薔薇のように輝き遠ざかってゆく故郷を、僕は静かに見送った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1026k/>

みあげてごらん

2011年2月3日15時40分発行